

## ◀ S · E · L · D · A · A ▶ No.3

上智大学英語学科同窓会  
東京都千代田区紀尾井町7-1  
上智大学英語学科事務室気付

昭和60年6月25日 発行

Sophia English Language Department Alumni Association

## 野口基金、活動始まる。

## 第1回野口記念懸賞論文募集開始

昭和50年4月、元英語学科長故野口啓祐教授が逝去された際、同氏の遺志を継ぎ、英語学科在学生の為に少しでも役立てることができるようにという趣旨のもと、奨学金として多くの英語学科同窓生の皆様よりご寄付いただきましたことをご承知の通りでございます。

かかる趣旨にご賛同いただき、集まりました寄付金は合計約400万円となりました。しかしながら、かかる金額では奨学金として運用するには十分な金額でないため、今日に至るまで具体的な形で運用されておりませんでした。

一方、昭和58年12月3日に英語学科同窓会(SELDAA)が設立されると同時に、当時の英語学科長Nissel神父様より本奨学金の運営を同窓会にて行なって欲しいとの依頼を受けました。これを受け、SELDAAでは野口奨学金(仮称)準備委員会を設け、本件をいかなる形で運営すべきであるか、約1年をかけて検討してまいりました。

この検討過程で、現在の英語学科生の経済的状況を考えた場合、奨学金を必要とするケースはほとんどないという事実が教員の中から提起されました。むしろ何らかの別の形で在学生の勉学意識、あるいは学問向上の為に役立てるべきではないかという方向が出され、この方針で本件を進めるということで確認いたしました。

この方針に基づき、昨年10月、本奨学金を運営する正式な機関として、「野口基金運営委員会」(これ以降「奨学金」から「基金」に呼称を変更しました)の設立がSELDAA幹事会で承認されました。同委員会のメンバーは、英語学科長、英語学科教員、同窓会会長、幹事会議長、常任委員により構成されております。同委員会では、本基金の運営を具体化する為に準備を進めてまいりましたが、第1回目として掲題のごとく懸賞論文を募集することになりました。概要は下記の通りです。

## 1. 募集論文のテーマは問わない。ただし、

イ、言語学(理論・教育等含む)

ロ、国際関係論

ハ、人文科学(文学・文化・思想等含む)

のいずれかの分野の未発表論文に限る。

## 2. 使用言語：日本語または英語

## 3. 様式、書式及び長さ：

日本語：400字詰原稿用紙30～50枚

英語：A4サイズにダブルスペースでタイプしたもの15～25枚

## 4. 賞金：原則として各分野最優秀論文に対し100,000円。但し、該当者がいない場合この限りにあらず。

## 5. 応募〆切：1985年6月15日(土)

## 6. 論文提出の〆切：1985年10月5日((土))

## 7. 選考結果発表：1985年11月中旬

## 8. 賞金授与：1985年11月16日(予定)に開催される、SELDAAファミリーパーティー会場。

## 9. 入賞論文の発表：野口基金運営委員会が発行する論文集に掲載する。また、入賞論文のAbstractを今秋発行予定のSELDAA会報に掲載する。

上記の通り、次号の会報に入賞論文のAbstract掲載予定です。またご希望の方には論文集を実費にて販売する予定です。(詳細は次号をご参照ください。)

第1回目は上記の通り懸賞論文の募集になりましたが、第2回目以降、本基金の趣旨に沿った運営方法につきご意見、アイデア等ございます方は積極的に英語学科事務室野口基金運営委員会宛ご連絡いただけます様、お願い申し上げます。

## 第2回講演会のお知らせ

英語学科同窓会では、昨年マケックニー神父様の名誉教授就任記念講演会に引き続いて、今年も下記の通り第2回講演会を開催することになりました。今回は講師として、本学科の松尾式之教授をお招きいたしました。松尾先生は英語学科の同窓生であり、また経歴が示す通り長く日米関係を研究され、民間人としては初めて、ワシントンの日本大使館に外務省特別職員として駐在しておられました。3年間の勤務からお返りになったばかりのところを特にお願いし、日米関係に関するタイムリーなお話を聞かせていただくことになりました。講演会に引き続き、松尾先生を囲んでの茶話会も予定しておりますので、多数ご参加くださいますよう、ご案内いたします。

### 記

日時： 昭和60年7月13日(土) 午後3時  
場所： 上智会館5階第6会議室  
講師： 松尾 式之教授  
演題： 「日米貿易摩擦の文化的側面」  
会費： 1,000円(茶話会費)  
主催： 上智大学英語学科同窓会 (SELDA)

### 松尾式之先生 略歴

昭和39年、上智大学外国語学部英語学科卒業、NHK、アメリカ大使館勤務を経て、米ジョージタウン大学にて修士、博士課程修了。外務省特別職員として3年間、ワシントンの日本大使館に駐在。現在、上智大学外国語学部英語学科教授。

## 定期女性セミナーのご報告

英語学科を卒業後、特に英語を生かした職に就いた者以外は、なかなか英語を思い出すチャンスのない私達にとって、何か刺激になるような、SELDAの年間の活動の一環としてのプログラムを作ることになり、昨年の会報でお知らせした通り、昨年11月より女子卒業生の為のセミナーを始めました。毎月1回、第4水曜日、(10:30~12:00)、S.J.ハウスの一室を拝借し、入試の時期を除き、1月、4月、5月と回を重ね、毎回20~25名の参加で楽しく勉強を進めております。

もう一度勉強(?)したいという声が会員の中から出、但しなるべく受け身の形で、というご希望でしたので、ニッセル神父様とご相談した結果、先ず耳慣らしに第1回(11月21日)は大学の視聴覚室を使わせて頂き、BBC制作のビデオフィルム“The Necklace”(モーパッサン作)を見、ニッセル神父様のわかり易い説明でスクリプトを読みました。第2回(1月23日)にはこの原文を読みました。フィルム鑑賞は大変評判がよく、続けて欲しいとの声が多くありましたが、視聴覚室を毎回お借りすることはむづかしく、第3回(4月24日)より本を決め、Short Stories by Famous American Writers を読み始めております。内容は次の通りです。

- After Twenty Years by O. Henry
- A Day's Wait by Ernest Hemingway
- The Shepherd's Daughter by William Saroyan
- The Use of Force by William Carlos Williams
- A Dark-Brown Dog by Stephen Crane
- A Visit of Charity by Eudora Welty
- The Loan by Bernard Malamud

これには、ニッセル神父様がダビングくださったテープもつき、前もって各自家で聴いてクラスに出るようになっております。目からだけではつい単語や構文にとらわれ、耳のみからでは安易に聞き流しがちになりますが、本とテープの両方から頭に入るので、改めて確認し理解することが出来ます。かなりスピードの速いテープですが、理解できる様になると楽しいものです。こうして5月で、半分読み終わりました。

日頃は英語に接したいと思っても、1人ではよほど意志強固でない限り本1冊読むことも出来ないものですが、仲間があるとお互いに励みになり、1学期に1冊ほぼ終わろうとしています。学校の授業その他でお忙しい中、貴重な時間を割いてくださるニッセル神父様には、参加者一同心から感謝しております。幸いS.J.ハウスの部屋のドアは内側から鍵がかかりませんので遅刻も大目に見て頂き、ロックされ“See you next time!”ということもありません。厳しかった英語科の授業を思い出し乍ら、昔と同じ語り口の“class”を楽しみに毎回集まっております。

参加者は38年卒~55年卒まで、大体1学年2~3名、最も多い40、41年卒が6~7名ずつというところですが、卒業年度の巾はかなりありますが、やはり同じ学科で学んだ者の集まりには、世間一般の集まりでは得られないものがあります。同じレベル、同じ方向をもって、同じ出発点から始まりましたので、非常になじみやすく居心地のよい会合になってきています。今迄参加の方々からは、堅苦しくなく、再び勉強を始めるにはとてもよいチャンスだと喜んで頂いております。中には学校その他で、又個人的に英語を教えている方もあり、夫々の場での疑問点を持ち寄って、質問し解決する場にも徐々に一つ一つありますのでこれを発展させ、積極的な活動にしていきたいと思っております。今回は教材の選択からすべて神父様をお願いしてしまいましたが、今後は出来るだけこちらから提案し、地味でも息の長い活動にしていきたいものと願っております。皆様のご協力をお願い致します。

次回は7月17日(10:30~12:00)於S.J.ハウスの予定(大学の試験と神父様のご都合の為第三週になります)です。その後は10月23日、11月27日を予定しております。(時間、場所は同じです)

この機会にせつかく上智で学んだ英語をbrush upなさいませんか、お気軽に多くの方が参加して下さること期待しております。世話人一同

お問い合わせは、鈴木禮子(41年卒)までどうぞ。TEL.03-321-3378



## メッセージ

日本鋼管 経営企画部 長谷川幹夫 (37年卒)

### Banff Springs での HOLE-IN-ONE

去る5月20日 Calgary での日加経済人会議の折、HOLE-IN-ONE 記念 plaque を確認するために Calgary から Banff までドライブした。

"This plaque is in recognition of the HOLE-IN-ONE achieved on May 22, 1983 by Mr. Mikio Hasegawa at the eighth hole of the Banff Spring Golf Course." この文章は、Banff Golf Course のマネジャー室の壁の中央に掛けられた plaque に刻まれている文言である。

Montreal での日加経済人会議の帰途 Banff でゴルフを楽しんだ。その折8番ホール(173yd) "Devils Cauldron" (「地獄の釜」) で HOLE-IN-ONE を達成したものである。この出来ごとがカナダの関係各界で話題になり、有名になって昨年8月には来日中の Alberta 首相 Lougheed と Steers 駐日加大使への HOLE-IN-ONE 記念タオル贈呈式にまで発展した。

友人 Jack Morrish が記念に上記の plaque をつくり CP ホテルと交渉してクラブハウスに掛けてくれたものである。plaque を見たときは、あの日の夢の HOLE-IN-ONE が目に浮んだのであった。

市川 正明 (49年卒)

4月24日マレーシアのプラント建設現場から帰国し、海外ボケも治っていないのに、鈴木君から何か一言ということで、とにかく取り止めもなく書かせて頂きます。

勤務先は東洋エンジニアリング(株)といたしまして、皆様の日常生活では SONY、資生堂とかと違い密着性のない企業で、いわゆるエンジニアリング会社というエネルギー資源、石油化学製造設備等のプラント建設を手掛けている会社です。

男のロマンを求めて入社し、早11年過ぎましたが、残念ながら英語科からは私の他に50年卒の田熊博君がいるだけで、寂しい限りです。配属先によって海外出張の頻度は違ってきますが、私も田熊君もプロジェクトの商務部門・アドミニー(契約管理、予算管理、現場では総務・人事まで含みます)を担当する部に配属された関係上、田熊君は今2度目の長期海外出張中ですし、私も短長期合わせますと、11年の内約半分は海外生活をしたこととなりますし、特に結婚後5年の内4年間海外生活をしました。建設現場はとにかく辺りな場所にあり、都市に出張・駐在する方を羨しく思う一方、現場には現場の良さがあります。同じ会社からだけでなく、色々の関連会社からのスタッフ(外国人・現地人も含みます)が一つのプロジェクトの中で一種の運命共同体を構築し、プラントの契約通りの引き渡しという最終目的を目指し、喜び・悲しみを分かち合います。現場の仕事では何と言っても人間関係が、仕事を遂行する上で大きな役割を果たしますので、人間関係にはアドミ業務では特に気を使います。しかし、この色々の人間模様の中からは掛け替えのない素晴らしい何か(人によって違います)が得られるのです。

紙面がありません。海外現場に初めて行かれる方は是非一報下さい。色々アドバイス出来ると思います。

横田 信行 (54年卒)

### CHICAGO より愛をこめて

53年および54年度卒の皆様、お元気でいらっしゃいますか。小生、会社より所払いの沙汰を受け(?)、現在 Northwestern 大学経営大学院で財務を勉強しております。

Chicago と云うと犯罪都市というイメージで見られますが、それはむかしむかしの話であり、今はマーケティングの要地であり、また世界に冠たるシカゴ商品取引所、マーカントイル取引所を擁する金融商業都市なのであります。また、たいへんエキサイティングな町でもあり、特に夏はミシガン湖畔(というか海岸が適語)に白い帆が無数に広がり、暮れない街にはジャズ、ブルースが満ち満ちます。

アメリカに来られたら、立ち寄られることをお勧めします。 TEL. (312)492-8476

### ※常任委員会からのお知らせ

- ・英語学科同窓会も2期目を迎えました。今年も11月にファミリーパーティを予定しております。詳しくは秋に発行する SELDAA 会報第4号でお知らせいたします。
- ・この会報は、会員の皆さんからの声を材料にして、編集していきたいと思っております。クラス会の呼び掛け、近況報告などどしどし原稿をお寄せください。
- ・会費のお振り込みは下記までお願いいたします。

東京銀行銀座支店 普通 0541095 上智大学英語学科同窓会  
入会金 1,000円 年会費 2,000円 (できれば3年分 計 7,000円)

なお、振り込みの際には、氏名欄に必ず卒業年度を記入してください。